



## 大草のよさ再発見・新発見「焼野」とは…

「大草小学校 創立百周年記念誌」の中で、「思い出の記」として大正 7 年卒の岩崎一氏がこう書かれておられます。“その頃の運動会は、いつも川内の上、鎌倉山のあたりの「焼野」の原で春おこなわれた。”

大草小の校歌にも出てくる「鎌倉山」も岩崎氏はじめ多くの方が同誌で書かれている「焼野」も気になって仕方ありませんでした。運動会だけではなく、遠足にも行っていたそうなのです。「鎌倉山」「焼野」とは一体どこなんだろう…。

その疑問を 7 月の終わり、交通指導に立っておられる阿比留さんにお伝えしました。すると、「現在の虚空蔵山公園のことではないか、菅原秀俊さんが詳しいはず」ということを教えていただきました。

コミュニティスクールとして今年スタートした大草小ですが、菅原さんは、その運営協議員のお一人でもあります。そこで先日、菅原さんに道案内をお願いしたところ、快く引き受けてくださったので、教頭先生と共に「焼野」目指して探検ドライブが始まったのです。

西園団地の上の道をどんどん登っていきました。しばらく行くと分かれ道がありました。菅原さんに「ここを右上に登れば元釜に、右に曲がれば西川内に出ます。」と教えていただきました。記念誌でも“通学は山道で、元釜から立石山を越え曲がり坂を通過して一里の道程を通いました。”（大正三年卒 大久保 徳次郎氏）とありました。大草小ができるまでは、逆に大草の児童はこの道を越えて伊木力まで往復していたのか、とその苦労を思わずにはいられませんでした。（もっとも、手記の多くは、その登下校で多くの体験をして楽しかった、と前向きな記述が多かったです。私自身、小学生のころ 3.7 km の道のりを毎日通った中で、多くの体験をしたことはいまだに忘れられません。）

分かれ道を左に登り続けると、目の前に開けた草原が見えてきました。これが、現在の「西川内虚空蔵山公園」であり、当時「焼野」と呼ばれた場所だったのです。残念ながら草が膝くらいまで生い茂っており、すぐに活動できる状態ではありませんでした。しかし、少し歩くと立派な展望台があり、長崎空港や諫早湾、雲仙岳など 360 度見渡すことができました。その見えてきた山の中の一つが「鎌倉山」とも教えていただきました。

「いつか子どもたちを連れてきたいですね。」と教頭先生と話しながら、展望台を後にしました。帰りは十六善神社の横に出る道を使いました。

“昭和 30 年代は、道路の開通とともに大草地区が、いわゆる陸の孤島から開放されていく黎明、開花の期”（創立百周年記念事業実行委員長 藤原正次氏）ともあります。現在の国道 207 号のありがたみを痛感したことでした。菅原秀俊さん、ありがとうございました。

